

購読の  
お申し込みは

0120-155103

Web版はこちらへ

ホームページ <https://www.jutaku-s.com>

住宅新報

ケータイは  
こちらから

検索

全国の読者とともに73年



昭和23年創刊

# 住宅新報



出村亜希子氏

私のバックグラウンドには、新卒で入社し4年余り勤めた建設会社があります。建設業界では異色の存

在で、建築主のための建設業を標榜し、業界改革を旗印に「CM(コンストラクション・マネジメント)」の普及に力を入れています。

人口減少社会を迎えるクラップ&ビルによる建築優先の時代ではなくなるなか、建築費のコストダウンという価値を提供する

## 倉庫リノベーション

### ⑧ ここがポイント!

#### サーキュラー・エコノミー宣言

サービスは、画期的で社会的な意義があると感じ、私も熱心に取り組んできました。CMは品質を保ちながらコストダウンを図るもので、手法の一つにはVE(バリューエンジニアリング)といって過剰や無駄を洗い出し取り除く方法があり、過剰消費を抑える効果もあります。エコノミー&エコロジーを追求しているとも言えます。

一方、現在手掛ける倉庫リノベーション「スクラップ&ビル」から「キープ&メインテイン」へという考え方のもと、築古の物件を改修工事によって新しい用途に生まれ変わらせ、建物寿命を延長させるものであります。「これはサーキュラー・エコノミー(循環型経済)の一つであり、不動産という資産の構築においても一種の付加価値であると考えています。

一例として、私たちが手掛けたオフィス改装案件で、既存のパーテーションを再利用して壁をつくったものがあります。レイアウトを変更するのに、既存のパーテーションを解体し、新しいレイアウトに合わせて再組み立てを行いました。そのパーテーションの一部にボードを貼り、クロスを貼って仕上げました。見た目は新しく作った壁と変わりません。通常であれば廃棄となるパーテーションの廃材を減らしながら、コストを大幅に抑え改裝することができます。

DGsの観点からも、サーキュラー・エコノミーに対応できた事例と言えるでしょう。建築においても、これまでの取り組みからさらに一步踏み込み、よりアクティブラな実践を通して、環境に配慮した社会的意義のある建築サービスを深めたいと思います。

※でもら・あさこ) 富山県出身。奈良女子大学大学院修了。一般建築士、宅地建物取引士。15年より㈱イーソーゴ総合研究所代表取締役。著書に「築古「ビル・倉庫」のリノベーション・コンバージョン計画実務資料集」(総合ユニアム株・共著)

## 倉庫愛ある建築

インダストリアルなりノ  
倉庫愛ある建築

倉庫リノベーションにおける  
変化。  
このように、既存の  
建物を改修して、新たな  
機能を付与する方針です。

この方針は、建築の持つ  
社会的意義を尊重する  
立場から生まれたもので  
す。

また、改修工事によって  
新しい用途に生まれ変わ  
る建物は、その外観や内  
装が大きく変化する場合  
があります。

そのため、改修工事の  
際に、建物の外観や内  
装をできるだけ残す  
ことが大切です。

また、改修工事の際に  
建物の外観や内  
装をできるだけ残す  
ことが大切です。

また、改修工事の際に  
建物の外観や内  
装をできるだけ残す  
ことが大切です。

DGsの観点からも、サーキュラー・エコノミーに対応できた事例と言えるでしょう。建築においても、これまでの取り組みからさらに一步踏み込み、よりアクティブラな実践を通して、環境に配慮した社会的意義のある建築サービスを深めたいと思います。

このためにはまず私たち  
が率先して、ここに倉庫リ  
ノベーションの「サーキュ  
ラー・エコノミー宣言」を